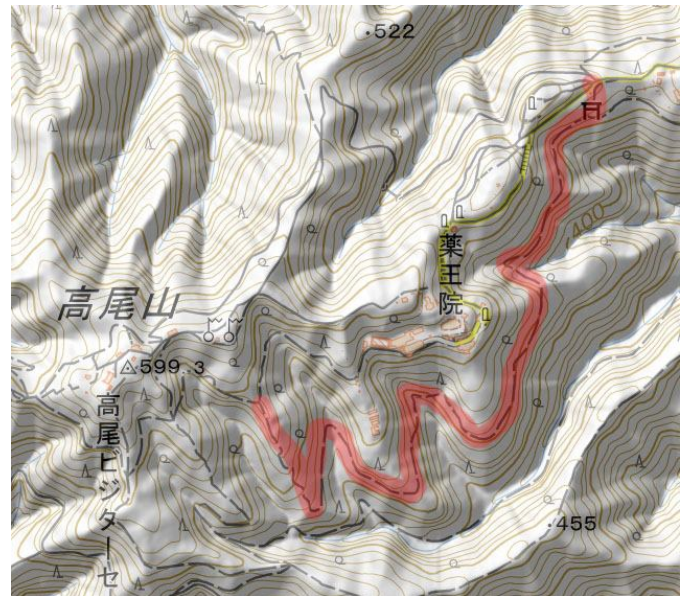


「早春の高尾山紀行(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



帰宅後に、3号路と地形図を照合してみた。やはり、尾根と谷が交互に現れる地形に道がつけられているとわかった。ほぼ等高線と平行な、いわゆる「平行道」であることもわかる。しかし、最後(地図の赤線の左端)は尾根を直登していて、「最後がづらい」登山道とわかる。実際に歩いてみても、最初はほぼ高低差はなく、最後に一気に登りがあった。



3号路は動植物の多様な環境だが、特に見たい植物があった。それは「キジョラン」である。3号路入口の案内板にも、「キジョランが観察できる」旨の記載があった。

キジョランはつる性の植物で、12月の観察の時にも1号路脇で姿は見た。キジョランの魅力は二つある。一つは、その綿毛(種子)である。「綿毛の女王」と呼ばれるほど美しいらしい。キジョラン(貴女蘭)の名の由来にもなっている。もう一つは「アサギマダラ」の幼虫の食草という点だ。3月上旬でも小さな幼虫が見られるという。どちらも見てみたいと思った。

前回の12月に来た時は、「1号路」という、高尾山では最もポピュラーな登山道を山頂まで歩いた。1号路は登山道という雰囲気はまったくない。道も舗装されていて、薬王院や売店の関係車両も通行する。今回は途中まで1号路を歩き、浄心門というところから「3号路」という道を山頂まで歩くことにした。

3号路は1号路とはまったくちがいで、自然の中の登山道という感じの道だ。鳥類、植物、菌類、昆虫類も非常に豊富である。あまり人も通らないので、自然観察を目的とした人には一番適した道だろう。

上の図でわかるように、3号路はクネクネと曲がっている。このような概念図の場合、山頂から見て飛び出している地点は「尾根」、山頂に向かって切り込んでいる地点は「谷」であることが多い。尾根は乾燥し、谷(沢)は湿っている。つまり様々な自然環境が見られ、同時に生物相も多様だということである。